

家族のつながりと全能神教会の成長

Massimo Introvigne
CESNUR (Center for Studies on New Religions)
maxintrovigne@gmail.com

要旨: 1991年に中国本土で創設された全能神教会は、驚異的な成長ぶりを見せ、信頼できる統計は存在しないものの、現代における最大の新宗教運動の1つとなったことに疑いをはさむ余地はない。独特の信者募集方法をとることが、成長の起爆剤だと見て、批判する者もいる。例えば、他の教会の信者を誘拐して改宗させるという批判がある。信者は家族に自らの宗教について話さず、全能神教会が、一般的な観点からすると、家族の役割は小さいとされる。しかし、家族に関する全能神教会の教義を分析すると、この主張には疑問が生じる。2018年に韓国、米国、フィリピンに暮らす500人以上の全能神教会の信者（6割以上は中国からの難民）に実施したアンケートによると、中国で改宗した信者の大半が、家族の成員から入信を勧められ、自らも家族の別の構成員の改宗を試みていたことが分かった。一方、海外で全能神教会に入信した中国人以外の信者の大半は、家族の改宗を試みるものの、自らの改宗のきっかけは家族ではない。社会学者のロドニー・スタークとロジャー・フィンケは、宗教運動の成長過程で教義の役割が過小評価されることに警鐘を鳴らす。全能神教会の成功は、多くの信者が、聖典『言葉は肉において現れる』を説得力があると捉えたことが、主な要因とする。しかし、中国で全能神教会が急成長を遂げた一因には、家族のつながりもある。

キーワード: 全能神教会、新宗教運動、新宗教運動と家族、宗教と家族、全能神教会の改宗方法

全能神教会は、20世紀もしくは21世紀に中国本土で生まれた最大の新宗教運動の1つである（Introvigne 2017b; Zoccatelli 2018）。信仰の柱は、神が旧約聖書でヤーウェとして姿を現し、後にイエス・キリストとして姿を現したように、同じ真の神が再び受肉し、全能神と謳われた（ルカによる福音書 17: 24-25、ヨハネの黙示録 1: 8、22: 20）。その全能神は、終わりの日に真理を表し、人間を徹底的に清め、救済のために働いているとされる。今回、全能神は中国で女性として受肉した。全能神教会の公式文書はその人物の名前を全く言及していないが、複数の研究者は、それが楊向彬（ヤン・シャンビン（1973

～)だと信じている。中国のキリスト教の家庭教会の信者の多くは、1991年から彼女が発する言葉を、「諸教会に向けた聖霊の言葉」(ヨハネの黙示録2:17)として受け入れ始めた。

中国当局は全能神教会を厳しく迫害し、邪教(異端とされた教義)リストに掲載した。1995年に公開されて以来、邪教リストにある信仰を広めることは犯罪とされる(Irons 2018)。信者は迫害されているため、中国での信者数を確実に算出することは不可能である。記者、政府機関、研究者は、全能神教会の信者数を数万から数百万と予測しているが(Dunn 2015; Immigration and Refugee Board of Canada 2014)、理論的根拠はほとんどない。中国当局は300万~400万人だとしている(例えば Ma 2014)。厳しい弾圧の必要性を正当化する目的で、数字は誇張されている可能性もあるが、中国の警察と情報機関は中国の秘密組織に関するデータを収集する権限を与えられた少数の機関であり、その情報を軽んじるべきではない。

本論の目的は、統計に関する議論ではない。以下では、1991年の創設から2010年代までの20年という短期間に、全能神教会が急成長した理由を考察したい。

宗教の成長を説明するとき、信者のエミックな観点(内側からの見方)と研究者のエティックな観点(外側からの見方)は通常異なる。信者は、神の導きと神の真理に根ざしているおかげで自分の宗教が成長したと信じる。研究者は、「宗教の人間的な側面」(Stark and Finke 2000)を扱い、より世俗的な要素を探す。しかし、ロドニー・スタークやロジャー・フィンケといった米国の社会学者は、エミックとエティックの説明は異なるが、相反するものではないとする。社会学者が、教義と宗教の成長の関係を重要視しないのは正しくない。実際、教義のもつ説得性が宗教の成長の鍵となる要素である(Stark and Finke 2000: 257-258)。

全能神教会のエミックな観点から説明すると、全能神教会は神の業から生まれ、全能神の言葉の導きのもとに発展した、ということになる。改宗者は、全能神の言葉を読むことを通じて、全能神は終わりの日に姿を現す唯一の真の神イエス・キリストが再臨した姿だと信じたため入信したのであり、神の言葉の権威と力を示したため全能神教会が急成長を遂げたと信者は語られる。それがために、全能神教会の教義こそが、教会が発展した要因といえるのである(教義の大部分は、全能神教会の聖典として知られる『言葉は肉において現れる』に記されている)。

スタークとフィンケが指摘するように、以上の主張が単に神学的で、論証に値しないわけではない。逆に両者は、新宗教の成長には、当該団体が説得力の

ある「動的な超自然 (active supernatural)」の概念と、人類を勘案した概念を提示することが必要だと主張する (Stark and Finke 2000: 258)。イエス・キリストが再臨したという教義と、全能神の言葉が危機的状況にある人々をより良い未来へと導くという教義が、無数もの改宗者には説得力のあるものと映り、成長を促した重要な要因の一つであったことは明らかである。しかし、全能神教会の兄弟姉妹によるエミックな観点から、教会の成長は教義の説得力に帰すると十分に説明できたとしても、このような視点に固執することで、全能神教会の成長に寄与した他の要因を考える研究を妨げてはならない。

宗教の改宗、特に新興宗教の改宗に関する文献が多くある。(調査結果は Introvigne 2011 参照)。カルトに反対する人々は、洗脳、マインドコントロール、壮大な欺瞞といった、悪徳な募集手段を使っているとして新興宗教運動を非難するが、研究者は、特に変わった技法を用いて布教しているわけではなく、言われているほど「魔法」は効果を発揮していないことを明らかにしてきた (Barker 1984; Kilbourne and Richardson 1984, 1986; Lamb and Bryant 1999; Richardson 1996; Robbins 1988)。入信研究の当初から、研究者らは、新興宗教は、ごく少数の稀な例外を除き、伝統的な宗教と同じような方法で改宗を進め、新たな信者を獲得し、成長していると結論付けている (Snow, Zurcher and Ekland-Olson 1980, 1983)。入信は、通常、家族や友人を介して行われる (Stark and Roberts 1982)。

全能神教会は例外の一つだと論じられる場合もある。教義において、家族を確固たる制度とみなさず、非常に軽んじていると非難されているからである。BBC は中国の反カルト情報に情報源を大きく依存しているが、2014 年、全能神教会の信者の親族を名乗る者が以下のように語ったと報道した (この人物は敵対的な態度を見せていた)。「家族を壊すのがカルトです。(中略) 家族皆の関係を壊し、皆が同じことをするように勧められます。(中略) 家族を毅然と拒否する人は、より高い職階が与えられるのです」 (Gracie 2014)。

他の悪意をもった情報源は、反カルトのパンフレット類によく見られるように、全能神教会は、「洗脳」や、他のキリスト教の教会の信者を誘拐して改宗させるといった、ひどい戦術を用いて成長しているとするが、これらの非難を裏付ける証拠には説得力がないと筆者は論じた (Introvigne 2018)¹。

筆者はまず、全能神教会の教義と文献には指摘されているような「反家族」を推進する立場がみられるのかを考察し、続いて、2018 年に韓国や米国やフ

¹ 当局は 2017 年まで、全能神教会に対する取り締まりの中で、他の教会の指導者を誘拐したという非難は行っていないのは興味深い。この非難は、福音派のキリスト教徒によるものだった (Introvigne 2018 参照)。

フィリピンの500人以上の全能神教会の信者を対象に行ったアンケート調査結果を紹介する（対象者のほとんどは中国からの難民である）。そこから、家族のつながりを断つのではなく、保ちながら通常改宗が行われるとする、伝統的な学術モデルが、全能神教会の信者の多くにも当てはまることがわかった。

全能神教会の教義と家族

全能神教会は、神が人類を救うための経営の働きは、三段階あるとしている。（ヤーウェと旧約聖書の）律法の時代、（イエス・キリストと新約聖書の）恵みの時代、（全能神と『言葉は肉において現れる』の）神の国の時代である。千年神の国の時代の始まりは、全能神が地上における職分を全うし、聖書が預言する終わりの日の大災害が終わり、全能神により清められた者が永遠に生き続ける天国に地球が変わった後である。1991年以来、私たちは神の国の時代で生きてきたとされる（Dunn 2015; Folk 2018; Introvigne 2017b)²。

しかし、どのような時代にあっても、神は人類を愛しているという基本的な真理は変わらない。人類が墮落して以来、神は自らの言葉で人類を導き、地上で良心的で道徳的な生活を送る方法と、神を正しく礼拝する方法を伝えてきた。神の教えは、十戒（「父母を敬うこと」、「姦淫をしてはならない」、「隣人の財産（妻）を貪ってはならない」など）の中で示され、イエスが繰り返した、家族に関する具体的な要求も含まれている。十戒とは、律法の時代における人類のための神の要求と規範であり、恵みの時代と神の国の時代にかけてはその効力が続いた。新しい時代への道を歩む中で、神は人類により実践的な要求を課した。そのため、十戒の重要性は、神の国の時代では多少低下するが、完全に取って代わられるわけではない。先行する2つの時代の戒めに基づき、神は新たな要求を課した。家族は神の言葉と真理の支配を受けることを許し、自身をキリストに委ねなくてはならないというものだ。

全能神は、次のように語っている。

今日、あなたがたに要求されていることは十戒だけに限らず、以前のものより高尚な戒めや律法であるが、これは以前のもので廃止されたという意味ではない。というのは神の働きのそれぞれの段階は以前あった段階を基盤にして実行されるからである。ヤーウェがイスラエルに伝えたこと——たとえば犠牲を捧げること、父と母を敬うこと、偶像崇拝をしないこと、他人に暴行を加えないこと、他人を呪ったり罵ったりしないこと、姦淫をしないこと、喫煙をしないこと、飲酒をしないこと、死んで放置されていた動物の肉を食べないこと、血を飲まないこと——これらは現在でもあなたがたの実践の基盤ではないのか。過去の基盤の上において、今日までの働きは行なわれてきたのである。もはや過去の律法が語られることはなく、新し

² 全能神教会の天啓史観論は、本論では扱わないが、Folk (2018) を参照されたい。

い要求が課せられるようになったからといって、過去の律法は廃止されたのではない。そうではなく、高められたのである。過去の律法が廃止されたということは、前の時代が期限切れになったことを意味する。しかし、戒律には常に守らなければならないものがある (The Church of Almighty God 2017a: 790)。

その中には、家族に関する神の要求もある。全能神は、神の主権と配慮のおかげで家族が存在し、家族は人間社会の良い面であると説く。

創造主による予定と導きが無ければ、この世に新しく生まれるいのちは、どこへ行き、どこに留まるかを知らず、身寄りもなく、どこに属する事もなく、自分の家も無いであろう。しかし、創造主の周到な采配のため、新たないのちは、留まる場所、両親、そのいのちの属する場所、親戚が揃った状態で、人生の旅路に就く (The Church of Almighty God 2017a: 1822)。

引用文の最後の文脈は、人間の生命のすべての過程 (誕生、成長、独立、結婚、子孫、死) は創造者によって完全に支配され、運命づけられている、と全能神が説明している下りだ。教会では聖霊に使われる人と呼ばれ、全能神教会の事務方のトップである趙維山は以下のように述べている³。

結婚と出産は、神の創造と運命に由来しており、男と女を創造し、彼らを実り多いものにして繁栄させたのは神である。それは、疑いようのない事実である。結婚と出産は神から来ており、それは否定することができない、肯定的なものだ (The Church of Almighty God n.d.)。

全能神教会の信者の中には、家を離れ、専任の証人の職務に生活を捧げている人もいる。このことが「家族の絆が壊れる」要因になっていると批判する人もいるが、これは全能神教会に限ったことではない (マタイによる福音書 10:38、ルカによる福音書 9:62、14:26、18:29-30)⁴。

全能神教会のリーダーが、結婚に関する信者の選択を妨害し、結婚を拒否する人にはより高い職階が与えられているという批判もあるが、これは、以下のような全能神の教えに反するものだ。

神が行動するとき、神は人間を強制しない。たとえば、あなたが結婚するかどうかは、あなたの実状に従うべきである。真理はあなたに対して明瞭に述べられているが、わたしがあなたを律することは無い。結婚しない限り神を信仰できない程度ま

³ 中国の情報源では、趙維山は全能神教会の「創設者」とされることがあるが、この認識は、大規模な宗教運動は女性によって創始されるという考えに対する偏見を反映しているように思われる。全能神教会は全能神と認める人の手で持ち上げられたとする全能神教会の主張に疑念を挟む理由はない。

⁴ イエス自身はこの理想を以下の過激な言葉で表現した。「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。(中略)それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」 (ルカによる福音書 14:26-27、33)。

で人々を虐げる家族もある。つまり、婚姻は逆に彼らに有利になっている。一部の人は、婚姻により全く利益を得ない上に、婚姻により元来自分達が持っていた物事を失う。こうした問題は自分の実状や決意により異なる。わたしは、規則を定めて、それに基づいてあなたがたに要求を行うことは無い (The Church of Almighty God 2017a: 982)。

先の時代に人が使われるときの原則はどのようなものでしたか。誰でも歌い踊ることができれば、あるいは年長で結婚していないなければ最高位にありました。私たちはそんなことは気にかめません。私たちは人の本質に着目します。なぜなら神を信じることの鍵は、ある人の本質がどのようなものであるか、その人が神を崇拝することができるか否かにあるからです (The Church of Almighty God 2018a)。

性的な不道徳については、性的な罪に対する伝統的なプロテスタントの福音主義的な教えと似ていなくもない言葉で、痛烈にこき下ろしている。全能神は、こう戒告する。

性的倫理が欠如し、好色な男性は、常に妖艶な売春婦を惹き付けて「享楽」に耽溺することを望む。わたしはそうした性的倫理が欠如した悪魔を救わず、そうした不浄な悪魔を忌み嫌う。その好色さ、妖艶さにより、あなたがたは陰府に落とされた。あなたがたは、自分に対して何を述べるであろうか。あなたがたのように不浄な悪魔や悪霊のような者は、極めて凶悪である。あなたがたは非常に不快である。どうしてそうしたくずのような人々が救われるであろうか。罪から抜け出せずにいる人々は、それでも救われるであろうか。これらの真理、この道、そしてこのいのちは、あなたにとって何の魅力も無い。あなたがたは罪深さ、金銭、地位や名声、利益、肉の享楽、男性の端正さ、女性の色っぽさに惹かれる。あなたがたには、どのような資格があつて、わたしの国に入るといふのか (The Church of Almighty God 2017a: 988)。

聖霊に使われる人は、全能神教会の信者に対して、結婚を尊重し、敬うように強く勧める。

夫 (または妻) がいる者の結婚を尊重する必要がある。他者の結婚を妨げてはいけない。他者を尊重することは、あなた自身を尊重することでもある。あなたが他者を尊重しなければ、自分自身を尊重していないことになる。あなたが他者を尊敬するなら、他者はあなたを尊重するだろう。心の中で結婚を尊重しないなら、あなたは人間性を持っていないということになる。結婚を尊重することができれば、そして他者を愛し、他者を尊重することができれば、他者に危害を加えるようなことは何も行わないだろう (The Church of Almighty God 2018b)。

全能神教会のウェブサイトには、全能神に改宗したことで、家庭生活がより調和の取れたものになり、昔から頭を悩ませてきた問題を解決することができたと主張する信者の証言がしばしば掲載されている (Haohao 2017; Panpan 2017; Xia 2017; Xiaolin 2016; Zhien 2017 参照)。

布教を旨とする宗教では、どの宗教であっても、信者はその信仰を家族と分かち合うように諭される。全能神が宣告した「神の国の時代に神に選ばれし人

々が従わなければならない行政命令 10 項目」の 1 つでは、以下のように述べられている。

信仰のない家族（あなたの子供たち、夫または妻、姉妹、両親など）は強制的に教会に入会させられるべきではない。神の家はメンバーに不足しておらず、役に立たない人々で数を作り出す必要もない。喜んで信じない人は誰も、教会に導き入れてはならない。この命令はすべての人に向けられる（The Church of Almighty God 2017a: 1458）。

家族であっても全能神教会の親族を敵視する人もいれば、専任の証人として身を投げることにした全能神教会の信者の方向性を共有しない人もいるだろう。しかし、これらの問題はどのような宗教でも起こるもので、全能神教会が稀なケースというわけでは全くない。趙維山は、専任の証人として働くことは強制されるべきではない、と以下のように主張する。

神のために自らのすべてを捧げるかどうかは、自分自身の選択に基づいて決めるべきである。福音を伝えるために身を投じる人もいれば、教会で奉仕する人もいる。そして自らのすべてを捧げて、専任で神に奉仕する人もいる。生活の一部の時間しか神を敬うために使えない人もいるだろう。これはすべて、人が自ら進んでどのような選択をするかに依る。神の家族は、人に何かを強制するようなことはしない（The Church of Almighty God 2017b: 1048）。

明らかに、全能神教会の信者が中国で逮捕されたり中国から出国することを余儀なくされたりしたために家族が分断されるのとは、異なる状況である。中国共産党のメディアは、全能神教会が家族を分離させていると主張するが、全能神教会の文献には、家族が分断する状況を作っているのは、中国共産党自身であると指摘している。韓国の全能神教会が制作した映画の一つ、『赤の家庭教育』では、信者がこの点を母親に力を込めて訴えるシーンがある。

たくさんの方々がクリスチャンが行き場所を失い家を失った。多くの信者が投獄され、迫害を受けて殺された人たちもいる。共産党政府によって無数のクリスチャンとその家族が苦しめられた。なのに共産党は、こう言うんだ。神様を信じたせいで家庭が崩壊したとね。事実を捻じ曲げ、話をすり替えてる。信者に対する弾圧や逮捕、拷問がなかったら、そんなことにはならない。共産党はクリスチャン迫害の罪を犯してる（Chen, Yin and Wu 2017）。

最近の全能神教会に関する出来事の中では、質の高い映画を制作していることが最も注目に値する。中国国外に難を逃れた全能神教会の信者の中には、芸術の才能を持つ人も多くいて、絵画や映画など、価値ある作品を制作している（Introvigne 2017a）。これらの映画は家族の絆の大切さを強調するもので、現代の家族が抱える危機や家族の問題をテーマにしているものもある。例えば、離婚がどのような結果を招くかや（*Where Is My Home*、邦訳：『私の家はどこに』、Huang, Zhang and Zhan, 2017）、10代のインターネット中毒について取り上げたものだ（*Child, Come Back Home*、邦訳：『わが子よ 家に帰りな

さい!』、Zheng and Li 2017)。全能神教会の映画が、全能神教会の教義とは異なる福音主義者が主催する国際的なキリスト教映画祭で受賞しているという事実は (Introvigne 2017a)、全能神教会の映画が伝統的なキリスト教の家族の価値観に沿ったものであることの証明だといえよう。

その全能神教会の神学が「反家族」的であることは、教会の聖典からは全く読み取ることにはできない。聖典では、家族は神の采配と計画のおかげで存在できると説き、親への敬愛と結婚の尊重という神の求めは、神の国の時代にあっても依然として強い効力を持っている、と繰り返す。

調査結果

調査方法

2017年、筆者はイタリア、米国、韓国において全能神教会の信者への口頭インタビューを行った。その多くは中国からの難民で、大半は家族の影響で改宗していた（全能神教会の言葉を借りると、「全能神に戻った」と回答した。アメリカ人（非中国人）数名にもインタビューを行ったが、中国の本土出身者とは異なり、Facebookで全能神教会の信者と交流を始め、直接話をし、入信したと話す人もいた。

迫害のため、中国本土では調査の実施が不可能であるため、中国本土以外の国に暮らす全能神教会の信者に対して質問集を使ってアンケートを行うことで、体系的な調査を実施した。最も単純なプログラムの1つ、Google フォームを使用した匿名調査である。中国を逃れたばかりの難民の場合、洗練されたツールでは抵抗をもつ可能性があると考えたからだ。韓国のソウルにある大規模な中国語圏の団体と韓国語圏の団体、米国の団体、フィリピンの団体という4つの団体に Google フォームのアドレスを用意し、英語、中国語、韓国語、スペイン語、タガログ語（フィリピン語）で回答できるようにした。

社会学のアンケート調査として、自発的かつ匿名で参加できるように、複数の言語で書かれた招待状付きのアンケート用紙を、「フェローシップ」と呼ばれる全能神教会最大の集会で配布した。集会の開催地は、以下の通りである。

- 韓国、ソウル（中国語フェローシップ）
- 韓国、ソウル（韓国語フェローシップ）
- 米国ニューヨーク州、フラッシング
- 米国バージニア州、レバノン
- 米国ミシガン州、グランド・マレー
- 米国アリゾナ州、ゴールドデン・バレー

- 米国カリフォルニア州、ロサンゼルス
- フィリピン、マニラ
- フィリピン、セブ
- フィリピン、ダバオ
- フィリピン、イロイロ

アンケート用紙は、韓国は 2018 年 1 月 21 日、フィリピンは 2018 年 1 月 24 日、27 日、28 日、米国は 2018 年 1 月 27 日、2 月 3 日、4 日に配布した。アンケート用紙には、締切日を 2018 年 2 月 28 日と記した。

韓国と米国（グラント・マレーとゴールデン・バレー以外）では、アンケート用紙を直接配布し、調査の目的を手短かに説明した。ゴールデン・バレー、グラント・マレーとフィリピンでは、地元の教会の信者にアンケート用紙の配布を依頼した。

韓国の中国語圏と韓国語圏、米国、フィリピンの信者は、アンケートに回答するための 4 つの異なるウェブサイトの利用にそれぞれ同意したので、各団体における回答数が判明した（表 1）。

表 1：アンケートへの回答数

国	提出された用紙数	回答が有効な用紙数
韓国（中国語圏）	351	347
韓国（韓国語圏）	37	34
アメリカ	70	66
フィリピン	71	69

一方、このシステムでは、回答者が属する団体や、韓国、米国、フィリピンなどの都市に暮らす信者なのかを特定できない。一部の集会は小規模であったため、回答者の匿名性の確保のため、国単位で分析する必要があると考えたためである（中国以外で全能神教会の信者数が最大の韓国では、韓国語圏と中国語圏の区別は行った）。表 1 に示すように、回答が不完全だったり、要件に従っていなかったりしたアンケートは分析には使用しなかった。

アンケート用紙を配布したフェローシップ集会への参加者数を集計したため、各フェローシップ集会参加者中の回答者数の割合を計算することができた。韓国の中国語圏の集会では 57.5%、韓国語圏の集会では 69%、フィリピンでは 68%、米国では 69.3%であった。

調査結果

アンケート調査では、自身の属性を以下から選んでもらった。

- 中国で全能神に改宗した中国人 (A)
- 中国以外で全能神に改宗した中国人 (B)
- 中国以外で全能神に改宗した非中国人 (C)

回答から、海外の全能神教会コミュニティには中国からの難民が数多くいることが分かった。516 人の回答者中 377 人 (65.31%) は中国で全能神に改宗し、中国以外で改宗した中国人はわずか 10 人 (1.94%) であった。非中国人の新規改宗者は 169 人で、全体の約 3 分の 1 (32.75%) と、予想以上に多い割合で、内訳は、韓国人 34 人、米国人 66 人、フィリピン人 69 人であった。全能神教会を中国の運動というより世界的な運動であると考えるのは時期尚早かもしれないが、非中国人を対象としない研究も時代遅れになってきているといえる。

改宗する前、回答者は中国の公式メディアにおびただしいほどに報道されている敵対的なニュースとは異なる、全能神教会に関する肯定的な話を耳にしたはずである。以下の選択肢から選択してもらった。

- パンフレットや本 (1.1)
- インターネット (1.2)
- 家族の成員 (1.3)
- 友人 (1.4)
- 全能神教会の証人 (1.5)
- その他 (1.6)

表 2 に、質問 1 の回答を示す。

表 2：全能神教会に関する最初の（肯定的な）情報源

グループ	中国で改宗した中国人	中国以外で改宗した中国人	非中国人	合計
パンフレットや本	5	0	0	5
インターネット	0	0	68	68
家族の成員	255	4	17	276
友人	52	1	72	125
証人	24	4	11	39
その他	1	1	1	3
合計	337	10	169	516

この表は改宗に関するものではなく、回答者が最初に全能神教会に関する肯定的な情報に接した情報源についてのものであることに留意してほしい。そして中国で改宗した中国人と、中国以外で改宗した非中国人の間には大きな違いがある。中国以外で改宗した中国人という第三のグループは規模は小さいが、証人が家族と同程度に重要であったことが分かる。しかし、中国で改宗した中国人には、当局が全能神教会のウェブサイトや国際的なソーシャルネットワークの大半をブロックしているため、インターネットは選択肢になく、全能神教会についての肯定的な情報のほとんどは、家族の構成員から得ていることが分かる（337人中 255人、75.67%）。友人は 15.43%（52人）と 2番目に後退し（52人、15.43%）、全能神教会の証人に至っては、7.12%（24人）にとどまる。

一方、海外で改宗した 169人の非中国人には、家族（17人、10.06%）と証人（11人、6.51%）を超えて、インターネット（68人、40.23%）が重要な情報源であったことが分かる。友人がより重要な情報源ではあるが（72人、42.60%）、証人にインターネット上で出会ったケースもあると思われる。

また、表 3 に詳述されているように、米国で改宗した非中国人には、インターネットの役割が重要で、韓国とフィリピンでは友人ネットワークがより重要であったことは、興味深い点である。以前行った対面インタビューから考察す

ると、このようなネットワークの多くは、他の教派から全能神教会に一斉に改宗した信者で構成されていた。少なくとも、フィリピンのある事例ではある 1 人の牧師に付いて改宗していた。

表 3：非中国人の改宗者の、全能神教会に関する最初の（肯定的な）情報源

非中国人の 改宗者	韓国	米国	フィリピン	合計
パンフレットや本	0	0	0	0
インターネット	1	54	13	68
家族の成員	7	7	3	17
友人	20	0	52	72
証人	6	5	0	11
その他	0	0	1	1
合計	34	66	69	169

アンケート調査の質問 2 では、「全能神に改宗した際、（全能神以外で）最も影響力があった人物は誰ですか？」と尋ねた。選択肢を以下に示す。

- 既に全能神を信じていた自身の直系親族（親、兄弟姉妹、子供）(2.1)
- 既に全能神を信じていた、それ以外の親族 (2.2)
- 個人的に出会った全能神教会の証人 (2.3)
- インターネットを介して出会った全能神教会の証人 (2.4)
- 既に全能神を信じていた友人 (2.5)
- その他 (2.6)

表 4 では、これらの回答の分布を示す。

表 4 : 改宗の媒介

グループ	中国で改宗した中国人	中国以外で改宗した中国人	非中国人	合計
直系親族	212	1	8	221
それ以外の親族	24	1	3	28
証人	63	2	16	81
インターネット	0	6	89	95
友人	31	0	52	83
その他	7	0	1	8
合計	337	10	169	516

表 4 に示すように、海外で改宗した中国人のサンプルは考察するに十分な数ではないが、インターネットが改宗に重要な役割を果たしていることはわかる。ここでも、中国人と非中国人の信者の間で違いがあることが分かる。中国では、相当数（212 人、62.91%）が直系親族の影響を受けて改宗し、さらに 7.12%（24 人）はそれ以外の親族の影響を受けて改宗している。証人は（63 人、18.69%）、迫害の脅威を受けながら活動しているが、友人（31 人、9.20%）と比肩できるほどの役割を果たしているものの、ほとんどの信者は家族からの影響で改宗している。この結果とは対照的に、家族（8 人、4.73%）と親族（3 人、1.77%）は、中国以外の非中国人信者の改宗に大きな影響を与えてはならず、インターネット（89 人、52.66%）が改宗の要因の大部分を占めていた。以下の表 5 では、恐らく上記の理由により、米国ではインターネットが優勢で、フィリピンでは友人経由が大きな比重を占めていることを示している。

表 5：改宗の要因（中国以外での改宗者の場合）

非中国人改宗者	韓国	米国	フィリピン	合計
直系親族	5	1	2	8
それ以外の親族	2	0	1	3
証人	11	5	0	16
インターネット	16	60	13	89
友人	0	0	52	52
その他	0	0	1	1
合計	34	66	69	169

インタビューの中でも何度か示されたように、中国の家族を通じた改宗は、海外に難を逃れた全能神教会の信者（アンケートに参加できなかったわずかな信者）の中で誇張されている可能性もある。牧師の勧めに従って全能神教会に改宗した事例は、フィリピン特有のものではなく、中国でも起こっている。個人の信者が個別に海外へ難を逃れた事例と比較すると、全能神教会の信者の大規模コミュニティが、大挙して海外へ逃れた可能性は低い。確かに、家族のネットワークがデータ上は重要な役割を果たしたことが示されているが、全能神教会は家族のネットワークだけに頼って成長したとは主張していない。

外国人改宗者に関する上記の見解は、アンケート調査前に行った対面インタビューの結果でも示されている。そのような外国人の改宗者の典型例は、アリゾナ州出身の中年の小規模なビジネスマンとその妻である。妻は Facebook 上で全能神教会の信者と交流を始め、直接話しをした後に改宗し、さらに夫も説得されて入信会した。『言葉は肉において現れる』で全能神の言葉を読み、その言葉は「すべて神から来た」と思えた。この男性は「とても心に響きました。神だけが語りることができる深遠な言葉です。今この時代に知ることによって非常に力が湧いてきます。神は、ご自身の言葉で私の心に語りかけてきています。他の誰も、そのようなことはできません」。妻は成人していた娘にも入信を勧めたが、娘は改宗しなかった。インターネット上にある全能神教会に関する否定的な情報に影響されていたからだ。

ここで再び、改宗を可能にするエティックの研究は、信者自身による改宗に対するエミクな認識とあわせて考察すべきであることを、今一度確認したい。福音を伝える方法は多様だが、改宗するかどうかは当人の自主性に任されており、最終的には全能神の声を聞く用意ができているか、唯一の神、再臨したイエス・キリストとして全能神を認められるかに委ねられる、と信者は力説する。

改宗後、全能神教会の信者は、ほとんどの宗教の改宗者と同様、他人に改宗を勧め、自身が新たに発見した信仰に目を向けさせようとする。質問 3 では「あなたは、家族の誰かを全能神に改宗する手助けを試みたことはありますか?」と問うた。回答は、「はい」(3.1) または「いいえ」(3.2) の二択である。全能神教会は布教活動に非常に力を入れている宗教で、全能神教会への入信後、家族を改宗させようとはしなかったと回答したのはごく一部で(67人、12.98%)、大多数(430人、83.33%)は、家族の成員を改宗しようとしたと主張している(表6参照)。中国の国内外を問わず、改宗の試みすべてが成功したわけではない。中国の家族は、共産党からの迫害を恐れているかもしれないし、教会に対する共産党のプロバガンダの影響を受けているかもしれない。アリゾナ州の夫婦が娘の改宗に失敗した事例からは、否定的な情報のおかげで、家族を改宗させることは米国でも難しいことがわかる。改宗者の家族は、ウェブ上で全能神教会に関する否定的な情報を数多く目にしているのだ。

表 6 : 家族を改宗させようとした全能神教会の信者

家族の構成 員を改宗し た	中国で改宗 した中国 人	中国以外 で改宗した 中国人	韓国人	アメリカ 人	フィリ ピン人	合計
はい	278	6	33	44	69	430
いいえ	40	4	1	22	0	67
その他	19	0	0	0	0	19
合計	337	10	34	66	69	516

結論

教会の規範となる全能神教会の書籍と全能神の言葉の分析と、アンケート調査の回答から、全能神教会は「家族を否定」していないことが示された。

全能神教会への改宗は、他の新興宗教への改宗と大きく異なることはない。このアンケート調査によると、中国で改宗した人の圧倒的多数 (70.03%) は、家族や親族の影響を受けていたが、国外へ逃れてアンケート調査に参加した全能神教会の信者の場合、他の改宗方法が過度に低く示されている可能性もある。一方、中国で改宗した人の 82.49%、サンプル全体の 83.33% の信者が、家族を改宗しようと試みていた。改宗は、家族のネットワークの中でしばしば行われる行為で、全能神教会が奇異で不吉な方法を用いて成長したという噂は、「カルト」を標的にしたよくあるレッテル貼りの一つの例であるように見える。

しかし、全能神教会が欧米ではインターネットを自由に活用するといった斬新な戦略を用いて成長しているように見える部分はある。中国以外、特に米国では、既存の家族ネットワークを利用するには全能神教会はあまりにも新しく、小さすぎる。信者のほとんどは中国からの難民で、滞在国においてほとんど、または全くつながりをもたない。全能神教会は、Facebook などのソーシャルネットワーク上で潜在的に改宗しそうな人に接近するなどして成長しようとしている。米国における全能神教会のアプローチは、ハレ・クリシュナとして知られる初期の ISKCON (クリシュナ意識国際協会) の運動と比較できる。ISKCON の創始者、A・C・バクティヴェーダンタ・スワミ・プラブパーダ氏 (1896~1977) は 1965 年にニューヨークに到着したとき、知り合いはなく、言葉も基本的な英語しか話すことができなかった。彼はセントラルパークでマントラを唱え始め、少しずつ若い献身者を獲得していった。アメリカでは縁故がなかったため、彼は家族のネットワークを利用できなかった (Wallis and Bruce 1982: 104)。中国からニューヨークにやってきた全能神教会の難民は、今日、同氏と同じような状況に置かれている。家族のネットワークを活用してアメリカ人を改宗させることは難しいからだ。唯一の違いは、今日、魅力的な全能神教会ソングを歌える場が、セントラルパークではなく Facebook という点である。

インターネットを利用する戦略は、今のところ米国では良好な成果を収めてきた。教会が中国本土以外で成長してもインターネットが引き続き使用されるのか、新しい国の各地域で共同体がまとまるようになれば、インターネットよりも伝統的な改宗方法の重要性が増すのかを判断するのは時期尚早だと思われる。

参考文献

- Barker, Eileen. 1984. *The Making of a Moonie: Choice or Brainwashing?* Oxford: Basil Blackwell.
- Chen, Wei, Yin Junxiu, and Wu Tong, dirs. 2017. *Red Re-Education at Home* [movie]. Seoul: Olive Leaf Film Studio. Accessed February 7, 2018. <https://www.holyspiritspeaks.org/videos/red-re-education-at-home-movie>.
- Church of Almighty God, The. n.d. “只有具备真理才能真正合神使用” (Only by Having the Truth, You Can Really be Used by God). *Classic Selections from Sermons and Fellowship on Entry into Life*. Accessed March 16, 2018. <https://www.hidden-advent.org/work-arrangements-018.html>.
- Church of Almighty God, The. 2017a. *The Word Appears in the Flesh*. Seoul: The Church of Almighty God.
- Church of Almighty God, The. 2017b. *Witnesses for Christ of the Last Days (The Twenty Truths of Bearing Witness to God)*. Seoul: The Church of Almighty God.
- Church of Almighty God, The. 2018a. “A Talk About God’s Administrative Decrees in the Age of Kingdom.” *Records of Christ’s Talks*. Accessed March 16, 2018. <https://www.holyspiritspeaks.org/god-administrative-decrees-in-the-age-ofkingdom>.
- Church of Almighty God, The. 2018b. “Focusing on Solving Three Problems That Are Currently Widespread in the Church.” *Classic Selections From Sermons and Fellowship on Entry into Life*. Accessed March 16, 2018. <https://www.holyspiritspeaks.org/chapter-82-focusing-on-solving-three-problems>.
- Dunn, Emily. 2015. *Lightning from the East: Heterodoxy and Christianity in Contemporary China*. Leiden: Brill.
- Folk, Holly. 2018. “Protestant Continuities in The Church of Almighty God.” *The Journal of CESNUR* 2(1):58–77. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.4.
- Gracie, Carrie. 2014. “The Chinese Cult That Kills ‘Demons.’” BBC. August 13. Accessed February 6, 2018. <http://www.bbc.com/news/world-asia-china-28641008>.
- “Haohao” [pseud.]. 2017. “The Growth of an Obedient Girl – Christian Testimony.” November 10. Accessed February 7, 2018. <https://www.hearthymn.com/the-growth-of-an-obedient-girl-christian-testimony.html>.
- Huang, Jiayun, Zhang Jun, and Zhang Suwen, dirs. 2017. *Where Is My Home* [movie]. Seoul: Judgment Seat of Christ Film Studio. Accessed February 21, 2018. <https://www.youtube.com/watch?v=moHa5xIOZ18&t=229s>.

- Immigration and Refugee Board of Canada. 2014. "China: The Church of Almighty God (*Quannengshen*), Also Known as 'Eastern Lightning,' Including Its Leaders, Introvigne: Family Networks and the Growth of The Church of Almighty God Location and Activities Attributed to It: Treatment of Members by Authorities (March 2013–September 2014)." October 16. Accessed February 6, 2018. <http://www.refworld.org/docid/546492804.html>.
- Introvigne, Massimo. 2011. "El hecho de la conversión religiosa." In *Conversión cristiana y evangelización*, edited by Juan Alonso and Juan José Alviar, 21–40. Pamplona: EUNSA (Ediciones Universidad de Navarra, S.A.).
- Introvigne, Massimo. 2017a. "The Church of Almighty God and the Visual Arts." *World Religions and Spirituality Project*, December 3. Accessed February 2, 2018. <https://wrldrels.org/2017/12/04/church-of-almighty-god-eastern-lightning-and-the-visual-arts>.
- Introvigne, Massimo. 2017b. "Church of Almighty God." *Profiles of Millenarian & Apocalyptic Movements*, CenSAMM (Center for the Critical Study of Apocalyptic and Millenarian Movements). Accessed February 6, 2018. <https://censamm.org/resources/profiles/church-of-almighty-god>.
- Introvigne, Massimo. 2018. "Captivity Narratives: Did The Church of Almighty God Kidnap 34 Evangelical Pastors in 2002?" *The Journal of CESNUR* 2(1):100–10. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.6.
- Irons, Edward. 2018. "The List: The Evolution of China's List of Illegal and Evil Cults." *The Journal of CESNUR* 2(1):33–57. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.3.
- Kilbourne, Brock K., and James T. Richardson. 1984. "Psychotherapy and New Religions in a Pluralistic Society." *American Psychologist* 39:237–51.
- Kilbourne, Brock K., and James T. Richardson. 1986. "Cultphobia." *Thought* 61(241):258–66.
- Lamb, Christopher, and M. Darroll Bryant, eds. 1999. *Religious Conversion: Contemporary Practices and Controversies*. London and New York: Cassell.
- Ma, Xingrui. 2014. "马兴瑞同志在省委防范和处理邪教问题领导小组全体成员会议上的讲话" (馬興瑞同志が省の610弁公室の全体会議でメンバーに語った話). Reproduced on the Web site of the Association for the Protection of Human Rights and Religious Freedom. Accessed December 21, 2017. <https://www.adhrrf.org/china-ma-xingrui-20140709.html>.
- "Panpan" [pseud.]. 2017. "A Post-90s Couple's Secret of Togetherness." September 14. Accessed February 6, 2018. <https://www.hearthymn.com/a-post-90s-couplessecret-of-togetherness.html>.
- Richardson, James T. 1996. "Sociology and the New Religions: 'Brainwashing,' the Courts, and Religious Freedom." In *Witnessing for Sociology: Sociologists*

- in Court*, edited by Pamela Jenkins and Steve Kroll-Smith, 115–37. Westport, CT: Praeger.
- Robbins, Thomas. 1988. *Cults, Converts and Charisma: The Sociology of New Religious Movements*. London: Sage.
- Snow, David A., Louis A. Zurcher, Jr., and Sheldon R. Ekland-Olson. 1980. “Social Networks and Social Movements: A Microstructural Approach to Differential Recruitment.” *American Sociological Review* 45:787–801.
- Snow, David A., Louis A. Zurcher, Jr., and Sheldon R. Ekland-Olson. 1983. “Further Thoughts on Social Networks and Movement Recruitment.” *Sociology* 17:112–20.
- Stark, Rodney, and Roger Finke. 2000. *Acts of Faith: Explaining the Human Side of Religion*. Berkeley, CA: University of California Press.
- Stark, Rodney, and Lynne Roberts. 1982. “The Arithmetic of Social Movements.” *Sociological Analysis* 43:53–68.
- Wallis, Roy, and Steve Bruce. 1982. “Network and Clockwork.” *Sociology* 16:102–7.
- Xia, Ding. 2017. “God Is in Charge of My Family.” September 11. Accessed February 7, 2018. <https://www.findshepherd.com/god-is-in-charge-of-my-family.html>.
- “Xiaolin” [pseud.]. 2016. “Almighty God’s Word Leads Me to Associate Normally with Others.” January 18. Accessed February 7, 2018. <https://www.findshepherd.com/almighty-gods-word-leads-me.html>.
- Zheng, Yi, and Li Mo, dirs. 2017. *Child, Come Back Home* [movie]. Seoul: Judgment Seat of Christ Film Studio. Accessed February 21, 2018. https://www.youtube.com/watch?v=qF4L4wcYv_w.
- “Zhien” [pseud.]. 2017. “I Finally ‘Regained’ My Lovely Son.” August 27. Accessed February 7, 2018. <https://www.findshepherd.com/i-finally-regained-my-lovelyson.html>.
- Zoccatelli, PierLuigi. 2018. “Anti-Cult Campaigns in China and the Case of The Church of Almighty God: An Introduction.” *The Journal of CESNUR* 2(1):3–12. DOI: 10.26338/tjoc.2018.2.1.1.

[本論は、*Interdisciplinary Journal of Research on Religion* 14 (2018, article 12) の邦訳である。]